

省庁の動き
河川局の動き
地方整備局の動き
地方自治体の動き
公益法人の動き
国際機関の動き
公益団体の動き
市民団体の動き
教育機関の動き
その他の動き

大分県

女性の視点から防災・災害復興対策を検討 防災基本指針や地域防災計画に反映へ

大分県は、行政用防災基本指針や地域防災計画に女性の視点や考えを反映させ、防災・災害復興分野における女性の参画促進を図るため、女性の防災関係者や被災者で構成される「女性の視点による防災指針作成検討会議」を開催して、女性の視点から、防災・災害復興に必要な対策の検討を進めている。

阪神・淡路大震災や新潟中越地震など、近年の災害では、家庭での責任が女性に集中したことや、行政、ボランティア等の被災者を支援する側に女性が少なかったことなど、女性に関して多くの課題が浮き彫りとなった。政府の中央防災会議は、こうした災害の教訓を踏まえ、2005（平成17）年7月に行った「防災基本計画」の修正で、新たに、地方自治体等が男女のニーズの違いなど、男女双方の視点に十分配慮して避難所の運営管理を行うことや、自主防災組織等への女性の参画を促進することなどを盛り込んだ。また、同年12月に改定された「男女共同参画基本計画（第2次）」でも、新たに、男女共同参画の視点を取り入れた防災・災害復興体制を確立していくことが明記された。

これを受け大分県では、2001（平成13）年策定の「おおいた男女共同参画プラン」の見直しを行い、2006（平成18）年3月に改訂版を策定。新たな取り組みとして、「防

災・災害復興分野における男女共同参画の推進」が盛り込まれた。「女性の視点による防災指針作成」の事業は、このプランに基づき実施されているもので、検討会議のメンバーは県内で活動する消防団員、消防職員、婦人防火クラブや社会福祉協議会、介護福祉士会、看護協会の職員、ボランティア・市民活動センター専門員、被災経験者の女性11人で構成される。

9月7日に県庁で開かれた第1回の検討会議には、山崎栄一・大分大学助教授がアドバイザーとして出席。会議では「新潟中越地震の被災地では避難所にいるほとんどが女性と高齢者で、福祉避難所や女性の避難所の確保が必要と感じた」「現在、大分市の消防団員約2200人のうち女性の団員は21人で、男性の中で活動していくには障害もあるが、今後は女性の意見を聞いてもらい、活動の場に出ていくことが大切」「防災用の備蓄品を揃える場合には女性の意見も取り入れてほしい」「被災地では被災当事者の意見を聞いて対策を進める必要がある」などの意見が述べられた。

10月には、これまで度々水害に見舞われ、昨年9月にも台風14号の大雨で土砂災害が発生して、2人が行方不明となっている大分県竹田市の被災地と、昨年3月の福岡県西方沖地震の被災地である福岡市玄界島で聞き取り調査を実施した。メンバー

は女性被災者や避難所の支援者、行政関係者から被災時の状況を聞き、女性の視点から課題・問題を提起。玄界島の調査では、普段から顔見知りであることが被害を小さくし、復興への団結力や精神面での支え合いにつながっていることや、婦人自衛消防隊組織が以前から存在し、男性が漁に出た後の島を守る役目を果たしていることなどが報告された。また、竹田市の調査では、災害時には男性は消防団、女性は炊き出しという役割分担意識が強いことが分かり、命に直接かかわる食に関することは、日常でも災害時でも女性に負担が掛かっており、被災した女性が食事の心配をしなくて済むような体制づくりが必要であるなどの意見が出された。

10月23日には第2回の検討会議が行われ、この中で、阪神・淡路大震災の際に被災女性の支援を行い、現在、女性の視点からの情報発信を行っている市民グループ「ウィメンズネット・こうべ」の代表正井礼子さんを講師に招き、「災害と女性」と題する講演会が開かれた。正井さんは、阪神・淡路大震災では、女性の犠牲者が男性より約1000人多かったこと、劣悪な住環境に置かれていた女性の独居老人が多数犠牲となったことなど、被災の実態について話した。また、避難所の水回りやトイレの管理が十分でなかったために病気になる女性が多かったことや、被災地で女性への性暴力が多発したことなど、被災後の状況を語り、「自治体による防災・復興計画の策定では、計画を作る段階から女性の参画を進めてほしい」と結んだ。

大分県では計5回の検討会議を開催して、年内には検討結果を取りまとめ、防災基本指針等に反映させるとともに、啓発用に女性の視点からの防災対策リーフレットを作成する予定である。

問い合わせ先
大分県生活環境部県民生活・男女共同参画課
TEL 097-506-3047
FAX 097-506-1744
E-mail a13100@pref.oita.lg.jp
URL <http://www.pref.oita.jp/13100/syakai/>



竹田市の被災地では、女性被災者や避難所の支援者などから話を聞いた